

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401053		
法人名	株式会社元氣な介護		
事業所名	グループホームくらしさ手稲		
所在地	札幌市手稲区富丘2条6丁目2-1		
自己評価作成日	平成30年2月15日	評価結果市町村受理日	平成30年4月2日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームくらしさ手稲では、元気な介護の経営理念でもある「暮らしを支え、心を磨く」の実現に向け、自分らしい毎日を送って頂ける様、努力し支援しています。また、社訓の「想い遣り」の精神を持って相手の事を想い、自らも成長していける様皆で支え合いながら仕事に取り組んでいます。日々の取り組みとしては、食べる事の大切さを常に考え、時間・形状を工夫し、ご本人様の思いや変化を読み取り、ご家族様や医師等と相談しながら対応しています。入居者様同士、馴染みの関係を作る事が出来る様、職員が間に入りながら、日々、体操やゲームなど楽しい時間を過ごして生活が出来る様、支援しています。

## ※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0170401053-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0170401053-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成30年3月23日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームくらしさ手稲は、バス停から近く最寄りの駅からも徒歩圏内にあり、家族や知人が訪れやすい場所に立地している、2階建て2ユニットの事業所である。近辺は住宅街だが、道路沿いには病院や多種多様な商店が立ち並び、生活環境に優れている。理念は基より、23項目ある行動指針は職員の道標となり、日々の業務に生かしている。利用者の体調不良もあり思うような外出は困難であったが、落ち着きつつある現在、外出や外食、レクの充実を検討している。運営推進会議では、課題に対してメンバーから親身な助言や提案を得ており、さらに各立場での情報も提供され、運営やケアの向上に繋げている。住み慣れた場所で最期までその人らしく安心して暮らせる環境を整え、状態悪化時は、医療関係者や家族と情報を共有するなどチームケアで臨んでいる。職員は、楽しく元気で過ごして欲しいと利用者の心身に寄り添っており、アットホームな事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有出来る様、各フロアーに提示し、確認出来る様にしています。また、新入社員には理念研修を行っています。	利用者や家族、地域との関係性や職員の資質向上を謳った法人理念を共有し、事業所内に掲示している。法人研修等で理念に込められた意義を学んでおり、管理者は都度、職員に理念の実践を問いかけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所のお祭りには町内の方に参加して頂いたり、町内会の新年会や総会にも出席し地域との繋がりを大切にしています。	事業所や町内会の行事には相互に参加の呼びかけがあり、管理者は総会等に出席し、事業所への理解に努めている。利用者は、外で遊ぶ子供達の姿に目を細め、ハロウィンで訪れた大勢の子供と記念撮影をしたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の集まり等であいさつをさせて頂いたり、会議等にも参加して頂き、地域の方々に理解されるよう努力しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご家族様・町内の方々に参加して頂き、話し合いの場を設けています。	会議は定期的開催され、メンバーに事業所の現況を報告している。提案で家族の出席が実現し、外出行事に参加したいとの要望を得ている。ヒヤリハット、防犯等に対し、町内会、家族、地域包括職員から助言や情報が得られている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の管理者会議に出席し、相談や助言を頂くように努めています。	行政とは、市や区の管理者会議への出席や実地指導、各種報告、相談等で各担当者に関わりがあり情報や意見を得ている。利用者の様子確認に来訪の担当者との情報交換を行い、安定した生活支援に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修に参加したり、カンファレンスにて話し合いを行うことで、身体拘束のないケアを心がけています。	身体拘束廃止や虐待防止に向けてマニュアルの整備や、法人研修に出席した管理者からの伝達研修、さらに法人本部より送られた事例を事業所内に掲示するなど、職員の理解や意識付けを図り適切なケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加や、カンファレンス等で話し合い、声掛けについても職員同士が注意し合える関係作りを心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方もいる為、研修等で得た情報はカンファレンス等で職員への周知を行なっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、理解・納得して頂ける様にしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見やご要望に対応出来る様、より良い暮らし・サービスの向上に努めています。	日常的に利用者や家族の要望把握に努め、課題は会議等で協議している。利用者の様子は、毎月の事業所便りや前月の介護記録の送付、手紙や電話等で伝えており、家族からは感謝の言葉や利用者の得意分野の情報を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談を行ったり、自身で課題や目標を設定し、働き甲斐のある職場になる様に努めています。	職員は、管理者や主任はもとより職員間でも意見を言える関係にある。管理者による面談で個人目標や評価を話し合うなど、事業所の質向上や労働環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自目標の設定を行い、評価制度を導入する事で、目標を持って働ける様努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	主任との話し合いや、職員との面談・指導を行ったり、研修に行く機会を増やし、会議等で報告する時間を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の管理者会議に年4回出席し、他の管理者の方々との交流が取れる様行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	サービスの利用前にはご本人様とお会いし、困っている事や不安な事や要望をお聞きし、安心して利用して頂ける様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前には、ご家族様と直接お会いし、不安や要望等に耳を傾けながら、要望に沿ったサービスを提供出来る様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様と直接お話をする機会を設け、サービスを提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様・ご家族様からの情報等は職員が共有し、一方的にならぬよう、常に相手の立場で考え支え合う関係性が築ける様心掛けています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には毎月の日誌やお手紙・面会時には日々の様子をお伝えしています。また、面会時には居室にてご家族様とゆっくり過ごして頂く様に配慮しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの馴染みの関係が継続できる様に努めています。	家族には行事参加を促し来訪に繋げている。また、友人来訪の受け入れや電話の取り次ぎを行うなど、馴染みの関係を大切にしている。懐かしい場所への外出希望は聞かれないが、希望があれば応じる態勢にある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様へは孤立にならぬ様、職員が間に入り、関わり合いが取れる様支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も連絡が取り易い状況・環境を心がけ、普段からも相談や報告が行いやすい関係性に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段より一人ひとりの思いや希望・意向の把握が行える様、寄り添い、カンファレンス等で検討しています。	職員は、利用者に「何を食べたいのか」「何をしたいのか」など常に問いかけ、出された要望はケアプランに反映するなど満足感に繋げている。利用者の誕生日には、希望で買い物や食事に同行している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様・ご家族様より生活歴を伺い、把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中で状況を把握し、対応が出来る様努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様の意向に沿える様お話を聞き、介護計画に反映出来る様行っています。	介護計画の定期見直しや状態変化時には、医療関係者の所見を踏まえ評価や課題分析を行い、利用者や家族の望む生活支援になるように会議で協議し新たな計画を立案している。ケアチェックシートで計画の実践を確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは職員が共有し、ケアの実践・結果等はカンファレンスで意見交換し、計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状態に合わせ柔軟な対応が出来る様心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所の行事には町内の方々に参加して頂ける様ご案内をしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診療に来て頂き、また、24時間いつでも医師との連絡が取れる体制になっています。	従来の医療機関の受診は、家族の協力を得ながら管理者が同行している。殆どの利用者は、内科・歯科の訪問協力医を主治医としている。さらに訪問看護師による健康管理が行われ、情報は関係者と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の情報は看護師に報告し、指示・対応が出来る体制になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際は面会にこまめに伺う事や、病院側との情報交換も行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様またはご家族様と何度も話し合う機会を設け方針を決めています。	利用時や状態悪化時に重度化や終末期の対応指針を説明し、意思確認を行っている。看取り時は、医療機関や家族と情報を共有し、チームケアの態勢を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応が出来る様、救命救急の研修に参加しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回避難訓練を行い、入居者様・職員には避難できる方法等を身につけて頂いています。	年2回消防署の立ち会いで、地震を含む日中想定避難訓練と夜間想定自主避難訓練を実施しており、課題は次回の訓練に活かしている。飲食料品やカセットコンロ等の備蓄品など随時用意している。	訓練時に地域の方への参加要請を継続して行うなど、相互の協力体制の確立と備蓄品の充実、停電、断水を含む風水害対策、避難場所の確認と家族への再周知を期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けには日頃よりカンファレンス等で話し合う機会を作っています。また、個々に指導も行っていきます。	職員は、法人研修で接遇について学んでおり、日々の業務で実践に努めている。言葉遣いなど不適切なケアに対しては、管理者が正しい理解に繋げている。個人関連の書類も適正に取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で会話を多くする事で、ご本人様の希望を伺ったりし、職員同士が共有する事で自己決定が行える様に働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方らしい暮らしが出来る様、工夫し、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服等選べる方には選んで頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食器拭き等が出来る方には職員と一緒に going しています。	献立と食材は配達されているが、時には配達を止めて利用者と一緒に食事を作っている。誕生日は、要望を取り入れたり、好みの食事を用意し祝っている。諸事情で行けなかった外食行事を検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養が偏らないよう、味や形状に工夫し提供しています。メニューは栄養士が作成しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや介助にて毎食後行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、出来る限りトイレでの排泄が行える様、声掛けや介助を行っています。	職員は、残存機能の維持に取り組んでおり、トイレでの排泄を基本として支援している。衛生用品使用の利用者が、職員の支援により布下着を着用している事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分を工夫し提供したり、体操を行ったりしています。また、医師にも相談し薬の処方も行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に合わせて声掛けや時間等考え、ゆっくりと入浴が行える様支援しています。	同性介助の要望を受け入れ、週2回の入浴支援を行っている。状態によりシャワー浴もあるが、職員の支援の下、時には2人介助により浴槽で寛いでいる。歌声や昔話、本音が聞ける場面でもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、安心して、ゆっくりと休んで頂くよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がない様チェックを行ない、目的や副作用等は職員がいつでも確認出来る様ファイルしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を把握し、出来る事・出来ない事を見極め、役割をもって生活が出来る様支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に配慮しながら、散歩に出掛けられたり、本人の希望があれば行える様支援しています。	玄関前のベンチで日光浴をしたり、道端の花壇や近所の花畑を眺めながら外気浴を楽しんでいる。ドライブを兼ね百合が原公園を散策後にソフトクリームを食すなど気分転換を図っている。外出行事の充実を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いはホーム側で管理をしています。ご本人様から希望がある場合には、ご家族様と相談しながら使う様にしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればお手紙を書かれたり、電話でお話をされたりしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、毎日清潔を保てるよう掃除し、温度や湿度にも気を付けています。また装飾は季節の物を取り入れ季節感を感じて頂ける様工夫しています。	採光や清掃、温湿度、騒音に配慮がある共用空間には食卓とソファが別々に配置されており、利用者は居心地の良い場所でリラックスしている。天井には五月の節句に向けた鯉のぼりが吊され、壁面にも手作りの鯉のぼりを飾るなど慣習を大事にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	孤立する事なく入居者様同士や職員とお話する機会を作り、レクを行ったり、お手伝いをして頂いたり工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は今まで使用してきた慣れた物を持って来て頂き、安心し心地よい生活が出来る様努めています。	約6畳ある居室には利用者や家族が持ち込んだ家具や装飾品、趣味の物等が動線に配慮して置かれている。清掃も行き届いており、安心して過ごせる居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事と出来ない事を見極め、危険がない様、声掛けや見守り・介助を行い、出来る限りは自立した生活を送れるような工夫をしています。		